

# 南海地震における災害想定が改訂されました

## 南海地震の最新想定

平成23年(2011年)3月11日の東日本大震災を受けて、平成24年12月に現時点で最大クラスと思われる**地震・津波についての想定が改訂**されました。

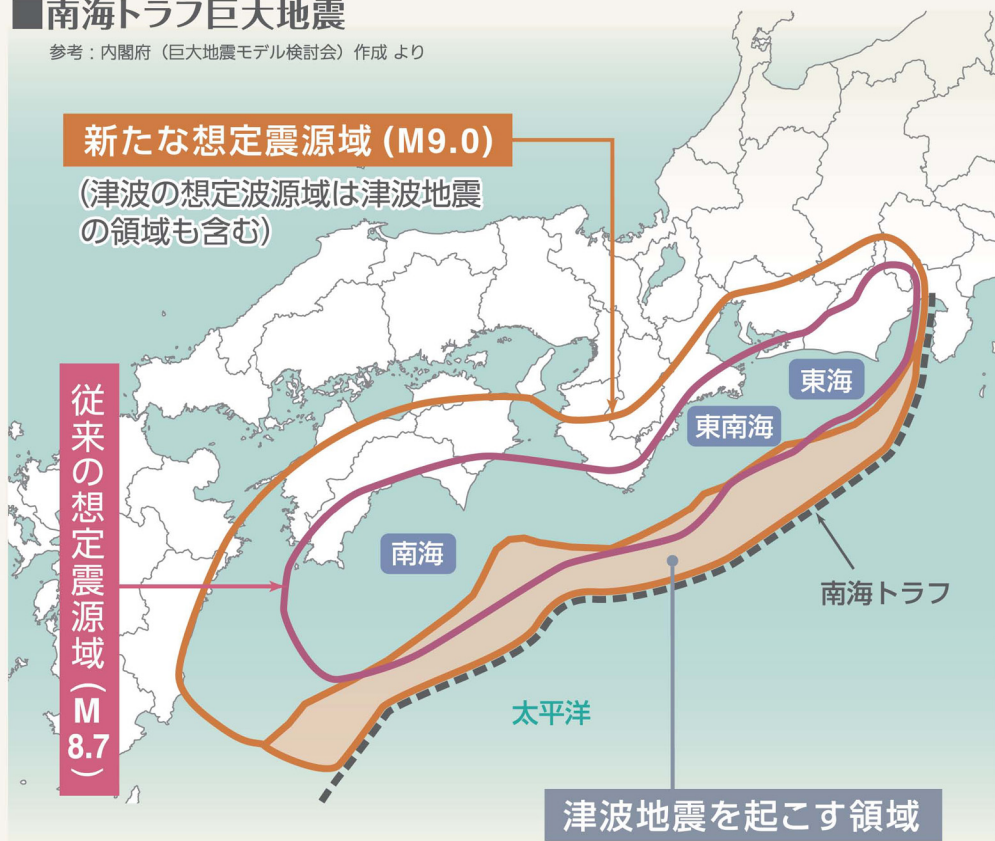
高知県では、南海トラフを震源とする巨大地震「東海・東南海・南海地震」が発生した場合、建物倒壊のみならず**地震発生と同時にまたは5分程度で津波が襲来する危険性**があり、また山間部においては土砂災害の危険性もあると予想

されています。現在の研究では、南海トラフで発生する地震のうち、南海地震の発生確率は「**10年以内で20%程度**」、「**30年以内で60%程度**」<sup>(注1)</sup>と予想されていますが、いつ起こるのかについては現在の科学をもってしても正確には分かりません。地震・津波はこの想定どおりに起こるとは限らないため、あくまでも可能性の1つとして認識していただく必要があります。

注1：地震調査研究推進本部公表の海溝型地震の長期評価より抜粋【算定基準：平成25年1月1日】

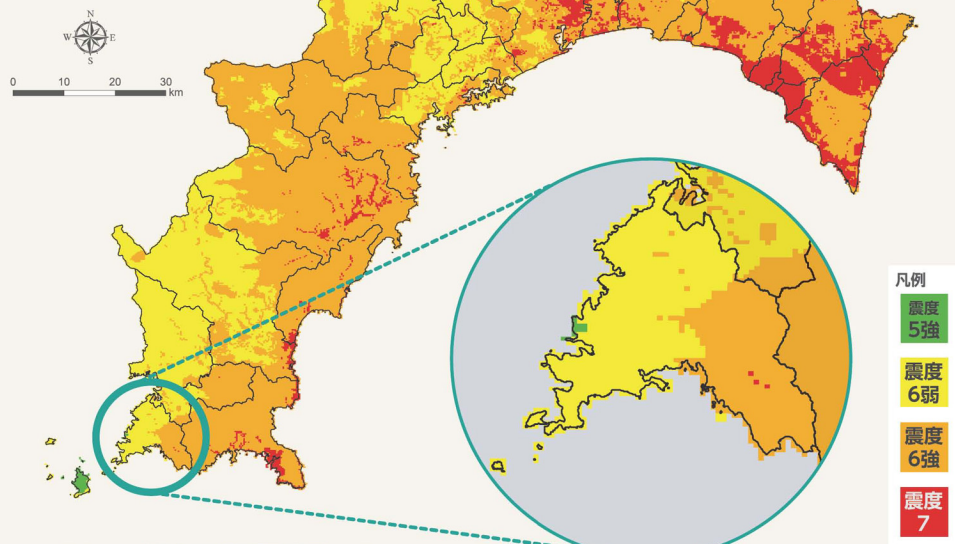
### ■南海トラフ巨大地震

参考：内閣府(巨大地震モデル検討会)作成より



### ■高知県震度分布図 (最大クラス重ね合わせ)

出典：高知県版第2弾「南海トラフ巨大地震による震度分布・津波浸水予測」(平成24年12月10日)より



大月町では**震度5強～震度7**の揺れが想定されています。この規模の揺れでは、補強されていないブロック塀が崩れたり、家具の転倒、耐震性の低い木造建物は傾いたり倒れたりします。また大きな地割れが生じたり、土砂災害が発生することがあります。

## 大月町で想定される災害

大月町では、南海トラフ巨大地震が発生した場合に、**震度5強～震度7**の揺れが想定されています。地震の際には、揺れに伴う**地盤の液状化・火災・建物倒壊・津波・土砂災害・ため池はん濫**といった様々な災害が発生するおそれがあります。

本防災マップでは、津波を中心として、土砂災害・ため池はん濫についての情報も考慮にいれて作成されています。

※土砂災害・ため池はん濫は、台風や短時間に激しく降る大雨(ゲリラ豪雨)など雨が降り続く場合にも発生する可能性があります。

### ■「地震のあと」に想定される災害

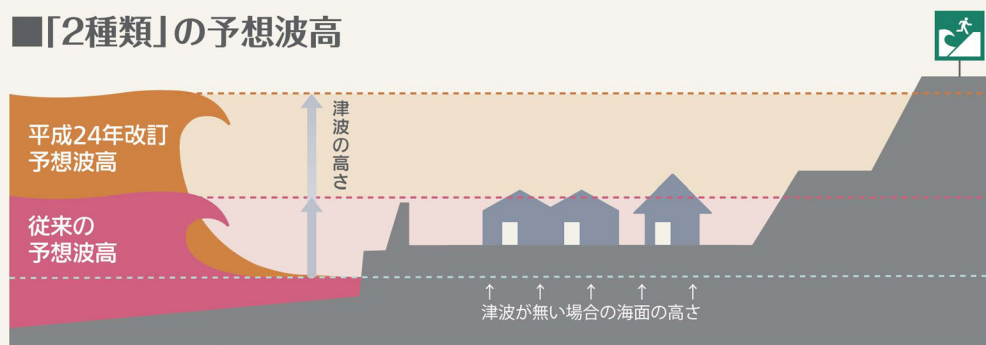


## 本防災マップの津波想定

本防災マップでは、平成24年12月改訂の最大クラスの地震・津波に比べ発生頻度の高い「安政南海地震の規模」(マグニチュード8.4相当)を、最新の地形地盤データにより再度推計した「**従来の予想波高**」と、「**平成24年改訂予想波高**」の2種類を表示しています。

最大クラスの地震・津波の発生率は極めて低いとされていますが、想定外を避けるためにも起こり得るという事を念頭において備える必要があります。

### ■「2種類」の予想波高



### ■従来予想波高と改訂予想波高との比較 (抜粋)

地区	従来予想波高	平成24年改訂予想波高	地区	従来予想波高	平成24年改訂予想波高
大浦	7.0m	22.0m	柏島	2.9m	13.0m
西泊	4.5m	19.0m	泊浦	5.2m	14.0m
古満目	6.6m	25.0m	馬路	0.0m	12.0m

※従来予想の数値は、高知県作成データ(津波防災アセスメント補完調査：平成17年5月)による安政南海地震(マグニチュード8.4相当)を基に記載しています。

※改訂予想の数値は、集落付近の沿岸から2メッシュ(20m)沖での津波高です。ただし、馬路地区の数値は内陸部へ遡上した津波高を記載しています。なお、場所によってはこの数値より高くなる場合があります。

### ■大月町における取り組み

大月町では、平成24年の地震・津波想定改訂を受け、**沿岸部地区の電柱などに、「海拔サイン」を設置しました。**

本防災マップの配布により、各地域の浸水想定を把握していただくとともに、右の海拔サインを設置することで、常日頃から住民自らが海拔(標高)表示を目にし、各集落において自分のいる場所の海拔(標高)を認識できるようにしています。津波発生の際にどの高さまで避難が必要かを確認しましょう。

